

マイクロソフト社の共同創業者(元会長兼顧問)のビルゲイツは、フォーブスの世界長者番付で1994年から2006年まで13年連続世界一にもなった大富豪であり、慈善事業家でもあることはよく知られています。(ビル&メリンダ・ゲイツ財団は、マイクロソフト元会長のビル・ゲイツと妻メリンダによって2000年に創設された世界最大の慈善基金団体である。2006年にはウォーレン・バフェットの300億ドルにのぼる寄附により財団の規模が倍増した(後述)。世界における病気・貧困への挑戦を主な目的としているが、特にアメリカ国内においては教育やITに接する機会を提供する活動を行っている。)世界中の多くの人が、パソコンのOSとして、マイクロソフト社のウインドウズを使用しています。

2020年(令和2年)4月29日には『旭日大綬章』を授与されています。(コロナのため授章式は無し)旭日大綬章(勲一等)は宮中において授与式を行い、天皇陛下自らが受章者に直接授与されます。旭日章は「社会の様々な分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者を表彰する場合に授与する」ものとし、「功績内容の重要性及び影響の大きさ、その者の果たした責任の大きさ等について評価を行い、特に高く評価される功績を挙げた者に対して授与されます。

しかし、ビルゲイツは、子供の人身売買組織を運営していたことや、様々な有毒なワクチンを世界中に拡散させた最大の黒幕で、多くの子供や人々を殺害した罪で、2021年7月21日にホワイト米軍に逮捕され、軍事法廷で詳細な証拠もとに審議され、**2021年10月1日に絞首刑**になりました。ビルゲイツの処刑後は、ビルゲイツの**替え玉**が、表舞台で活動しています。

様々な病原菌(コロナを含む)の研究室での作成を指揮し、世界中に伝染させた最大の黒幕であるアンソニー・ファウチ博士は、**2022年4月25日に絞首刑**になっています。(ホームページの『ファウチ博士 ホワイト米軍に逮捕される 4月15日』も参考にしてください。)

ビル・ゲイツ

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

マイクロソフトの共同創業者兼元会長兼顧問、ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同創業者兼共同会長。

カスケード・インベストメント共同創業者兼会長、コービス共同創業者兼会長、bgC3共同創業者兼会長、マイクロソフトリサーチ共同創業者兼会長、テラパワー共同会長、リサーチゲート共同創業者兼名誉理事長。

称号はイギリス女王より名誉騎士(名誉大英勲章ナイト・コマンダー)、旭日大綬章、立教大学及び早稲田大学より名誉博士を贈られている。

シルバー・バッファロー章、アメリカ国家技術賞、メアリー・ウッドワード・ラスカー公益事業賞、ジェファーソン公共サービス賞、テック・アワード、大統領自由勲章も贈られている^[2]。



Windowsの開発[編集]

最初の製品が発売された時には1985年になっていた。Windowsが現実的に使えるシステムになるのは、1990年のWindows 3.0の時である。1995年にマイクロソフトの開発したWindows 95に至って、ようやくMacintoshと比肩ひけんしうるレベルに達した。

2000年以降の活躍[編集]

2000年1月にCEO職をバルマーに譲る。 2006年6月15日には、2008年7月に第一線から身を退き、ビル&メリンダ・ゲイツ財団での活動を重視すると発表し、CSA(Chief Software Architect、首席ソフトウェア設計者)職をレイ・オジーに移譲した。 2016年に大統領自由勲章を妻と共に受章した^[43]。2020年3月13日にマイクロソフト取締役役を退任した。 長年取り組んできた途上国などの教育問題や気候変動対策に充てる時間を増やすことを退任の理由に挙げている。



軍がビル・ゲイツを逮捕

By Michael Baxter -2021年8月1日 ([Real Raw News](#)より翻訳)<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/08/blog-post.html>

米軍は火曜日、マイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツ氏を逮捕し、この社会的に不適合な人物を、児童売買をはじめとする、アメリカとその国民に対する言語道断の犯罪で告発した。

米海軍法務顧問団の関係者がReal Raw Newsに語ったところによると、軍は何か月もかけてゲイツを探していたが、つかみどころのない億万長者は、その富とディープステートの人脈を利用して捕まるのを逃れ、どうにか軍の捜索の一步先を行っていたという。しかし、7月27日(火)、ゲイツは、サウスカロライナ州マートルビーチに彼が密かに所有していた物件で、米海兵隊に逮捕された。

ゲイツの容疑は多岐にわたっている。

彼は、**COVID-19ワクチン**の緊急承認をFDAに強要したとされているが、その際には、この危険性のある医薬品のカクテルが摂取者を危険にさらすだけでなく、**人間のDNAを破壊する可能性がある**ことを知っていた。法務総監は、マイクロソフト社とスウェーデンのバイオテック企業であるバイオハックス・インターナショナル社が製造した合成ナノ粒子がワクチンに含まれているかどうか調査している。

軍部は、ゲイツ氏がワクチンの販売で多額の利益を得ようとしていたと主張している。法務総監の文書によると、ゲイツ氏はこれまでワクチンへの出資を否定してきたが、**ファイザー社、モデナ社、ジョンソン・エンド・ジョンソン社のワクチンの共同販売で少なくとも100億ドルを得ていた**という。

法務総監はゲイツ氏に、接種後72時間以内に死亡した7,000人の米国民の死の責任の一端を負わせている。さらに、軍はゲイツ氏を、有罪判決を受けた小児性愛者ジェフリー・エプスタイン氏とともに運営していた**児童売買組織の首謀者**として告発している。

RRNが5月20日に報じたように、法務総監の権限で活動する米海軍特殊部隊は、ワイオミング州北西部にあるゲイツ氏の492エーカーの牧場を襲撃し、**奴隷として売られる前の子供たちが一時的に収容されていた地下壕**を発見した。

現場で回収されたSDカードには、パジャマ姿の少女がベッドに手錠をかけられ、母親を求めて泣き叫ぶ姿が映っていた。カメラには映っていないが、マニアックなゲイツが「新しいママとパパを喜ばせるために、ハイヒールやランジェリーを着なさい」と子どもに促す声が聞こえてきた。

この証拠とゲイツ氏のワクチン詐欺の事実から、軍はこの社会的には不器用だが冷酷で危険なオタクを世界規模で捜索することになった。

関係者がRRNに語ったところによると、ゲイツ氏の逮捕には妻のメリンダが重要な役割を果たしたという。「当初、彼女は全面的な協力を消極的でした。なぜなら、自分が関与したことが知られると、離婚調停で得ようとしている財産(そのほとんどが支払われていない)が危うくなると考えたからです。しかし、法務総監は、彼女が児童売買の事実を知っていたことを証明する証拠を入手し、協力しなければビルと一緒に起訴されることを伝えました。

ビルは、彼女だけが解読できる暗号化されたメールを彼女に送りつけていたことが分かりました。

彼は和解しなかったのです。

軍はそれを利用したのです」と関係者は語る。

メリンダはようやく彼に返事をして、会うことに同意したという。

彼女はビルに時間と場所を指定するように言った。それに対してビル・ゲイツは、マートルビーチに所有していた家を提案した。軍は、ゲイツが所有していると思われるすべての物件を監視していたが、マートルビーチの家は、ゲイツが偽名で購入していたため、軍の目に留まらなかったのである。

ゲイツ氏が現れたときには、海兵隊が待ち構えていたという。彼は身柄を拘束され、グアンタナモ湾への移送を待って、現在は不明の場所に拘留されているという。



法務総監、ビル・ゲイツの軍事法廷を予定

By Michael Baxter -2021年8月12日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/08/blog-post_12.html

マイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツ氏は、小児性愛者の**ジェフリー・エプスタイン**氏と共に児童売買組織を運営していたことや、**一見無害に見える予防接種に、人間の脳を侵食する化学物質や合成ナノ粒子を混入させる計画を立てたこと**など、様々な罪を問われることになる。

既報の通り、7月27日、米海兵隊はサウスカロライナ州マートルビーチに密かに所有していた物件でゲイツを逮捕した。その2日後、彼はグアンタナモ湾に飛ばされ、尋問を受け、迫り来る法廷を待つことになった。

軍のディープステートの粛清に関わる情報源がReal Raw Newsに語ったところによると、ゲイツは当初、非協力的で寡黙であり、(彼の言う)「トランプの腐敗した軍事政権」が投げかけた質問には答えなかったという。

「ゲイツが知らないうちに、軍はすでに必要な証拠をすべて持っています。ゲイツが独房に入っている間に、**軍は全国のゲイツが所有する十数か所の物件を一斉に搜索し、コンピューター、ラップトップ、書類などありとあらゆるものを押収しました。**

その中には、『世界を支配する方法(How to Rule the World)』というプロジェクトに関する3,000ページのメモも含まれていました。まるで『ピンキー&ブレイン』*の漫画のような内容ですが、法務総監は正当な内容だと考えています。要するに、**ワクチン産業を乗っ取って、予防接種を受けた人を殺すか、頭の悪い奴隷にする化合物で汚染するという内容です**」と情報源は語っている。

偶然にも、**ゲイツ氏はワクチン業界に身を置き、メルク、ファイザー、モデナ、ジョンソン・エンド・ジョンソン、ロシュ、ノバルティス、グラクソ・スミスクライン**といった大手製薬会社の株を大量に保有していたのである。

ゲイツ氏は、この業界に莫大な資金を投入し、その投資で巨額の利益を得ていたのである。

法務総監がゲイツ氏に『世界を支配する方法』について質問したところ、ゲイツ氏は、この文書は、マイクロソフト社が設立されて間もない1975年に、元パートナーのポール・アレン氏と一緒に最初に考えたビデオゲームのテンプレートに過ぎないと主張した。ゲイツ氏によれば、ゲームのアイデアは当時の時間的制約と技術的限界のために棚上げしたが、退屈を解消するためにアウトライン化を続けたという。また、自分は慈善家であり人道主義者であり、他人への暴力は自分の善良な性格と正反対であるため、人を傷つけたことはないと言った。

5月17日に軍がワイオミング州のゲイツ氏の牧場を急襲した際に押収したSDカードのビデオを法務総監が彼に突きつけると、ゲイツ氏は自分の富を自慢し始め、軍の調査官に「釈放と引き換えに彼らを大金持ちにしてやる」と言ったという。

そして、ゲイツは現実を突きつけられた。法務総監と軍事委員会事務局が彼の財産を「専有」し、国内外の資産を凍結したことを知らされたのだ。

「そのとき、ゲイツは弁護士を要求した後、再び口を閉ざしてしまいました」と関係者は語っている。

最後に関係者は、ゲイツ氏の元妻メリンダ氏を含む少なくとも6人の証人が、8月23日にゲイツ氏に不利な証言をする予定だと付け加えた。

https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/08/blog-post_24.html

米海軍法務顧問団のジョン・G・ハンニク副提督は、数日間にわたる軍事法廷の開始にあたり、ビル・ゲイツ氏を激しく非難した。

月曜日の午前9時、憲兵隊はゲイツ氏をGITMOのキャンプ・デルタ収容棟から法廷へと案内し、ハンニク氏と3人の士官がゲイツ氏の到着を待っていた。ゲイツ氏の傍らには、かつて司法・国際法センターに勤務し、2009年にはグアンタナモ湾に収容されているジハード主義者の釈放を働きかけたこともある弁護士のデビッド・バルアルテ氏がいた。

ハンニク副提督の最初の行動は、ゲイツとジェフリー・エプスタインを結びつけ、ゲイツがワイオミング州に所有していた牧場の地下にあるバンカーから運営していた児童売買組織との関係を明らかにすることだった。彼は、軍が全国のゲイツの所有地を急襲した際に押収したノートパソコンやSDカードから得たビデオや画像をパネルに提示した。

その中には、ゲイツ氏とエプスタイン氏が、第三世界の子供たちを誘拐して高値で売りつける計画を立てている様子が映っていた。

ビル・ゲイツはビデオの中で、「エルサルバドルは誘拐に適している」と言っていた。

「いや、肌の色が黒い子供の市場は今少ない。ヒラリーでさえそれらを望んでいない。白人か白人風の子供がいちばん金になるんだ」とエプスタインは言った。

ビデオの中で、ビル・ゲイツは笑いながらニヤニヤしていた。「前にやったように、ここで調達すればいいんだよ。誰も我々に触れることはできないだろう。私たちが絶縁されていることを確認した」。

ハンニク副提督はゲイツの弁護士に向かって言った。「あなたのクライアントはこの件について答えを持っていますか？」 ゲイツは身を乗り出して、デビッド・バルアルテの耳元でささやいた。

「これはすべてロールプレイです。そう、ビルとジェフリーは友人だった。ジェフリー・エプスタインには多くの友人がいて、ビルはそのうちの一人に過ぎませんでした。このビデオは、2人の男が何かのロールプレイをしているだけで、軍はそれを、私のクライアントに犯してもいない罪を着せるための壮大な陰謀だと誇張しているのです。

ビル・ゲイツは地球上で最も賢い男の一人です。もし彼が子供の誘拐を計画していたとしたら、その計画をビデオテープで撮影すると本当に思いますか？」バルアルテ氏はこう言った。

ハンニク少将は、「あなたのクライアントは、ナルシストで誇大妄想家でもあります」と答え、軍がゲイツ氏のコンピュータの1台から入手し、その後解読したスプレッドシートのプリントアウトをパネルに提供した。

そのスプレッドシートには65人の名前が書かれていた。その65名とは、全米の国立公園を訪れた際に、不可解なことに行方不明になった子供たちである。それぞれの名前の横には、25万ドルから300万ドルまでの金額と、子供の年齢、髪や目の色が書かれていた。誘拐されたと推定される時点で、最年少は4歳だった。

デビッド・バルアルテ氏は異議を唱えた。「国立公園内で子供たちが失踪していることは周知の事実です。

ゲイツ氏は人道主義者であり、子供の福祉に関心を持っています。アウトドア愛好家ではない私のクライアントが、子供を盗むために不吉な環境を歩き回っていたと本当に思いますか？」

「もし彼が崇高な人道的使命を帯びていたのなら、なぜそれぞれの子供にドルを割り当てるのですか？」

それに、ゲイツ氏自身がグランドテトンやヨセミテをハイキングしたとは思えない。しかし、誰かが彼の代わりに行ったのです」とハンニク副提督は言った。

ハンニク副提督が手にしたリモコンのボタンを押すと、天井の埋め込み式の開口部から大きなビデオスクリーンが下がってきた。暫くして、ゲイツ氏の別居中の**元妻メリンダ**がスクリーンに現れ、名前と被告人との関係を述べ、証言と引き換えに寛大な処置を受けたが、真実のみを話すことを認めた。

いつもは物腰の柔らかいゲイツ氏が、突然椅子から立ち上がり、手錠をかけられた手首をスクリーンに向かって振った。「この金食い虫め。この女の言うことは信じられない」とゲイツは叫んだ。

ハンニク副提督は、バルアルテに依頼人を拘束するように指示し、憲兵隊がそれをしないようにした。「メリンダ・アン・フレンチ」とハンニク副提督は、メリンダに旧姓で呼びかけた。「あなたは、2017年8月14日に、あなたの元夫であるビル・ゲイツが、アメリカ国内と海外の両方で子供を誘拐させたと自慢しているのを聞きましたか？」彼女は肯定的に答えた。「そして、他にも何度か」と彼女は付け加えた。「彼はそのことをあからさまに話しましたか？」とハンニク副提督が尋ねた。「彼はそうしました。彼は笑って、ニヤニヤしながら、自分とその仲間が家族から誘拐した子供の数をほのめかしていました」と彼女は答えた。「彼は数字を言ったことがありますか？」「でも、数千人とまではいなくても、数百人単位であることは明らかです」とメリンダは言った。「そして、あなたはその情報を伝えに来ようとは思わなかったのですか？」ハンニク副提督が言った。「私は豊かな生活を送っていましたが、彼は自分の秘密の生活を漏らしたら、その生活を奪うと脅しました。彼は私を殺すと言っていました」とメリンダは言った。

ハンニク副提督は、「きょうここで聞いたことをよく考えてみてください、あすにはもっと多くのことが起こるでしょうから」とパネルに語りかけ、火曜日の午前10時まで休会した。

ビル・ゲイツ軍事法廷、8月31日(火)再開へ

By Michael Baxter -2021年8月29日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/08/831.html>

マイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツ氏が8月24日に行った病気と狂気の芝居のような行為の後、長らく延期されていたビル・ゲイツ氏の軍事法廷が8月31日(火)に再開されることになった。

この日の審理が始まる直前、ゲイツ氏は軍事委員会事務局に対し、衝撃的な発言をした。ゲイツ氏は、Covid-19の予防接種を受けておらず、グアタナモ湾の他の収容者からウイルスをもらったと考えていると述べたのである。ゲイツはGITMOの南側の法廷に、まるで息をしばり出すような声で入ってきた。弁護士のデビッド・バルアルテは、依頼人は「瀕死の重症」であり、ゲイツの病気は軍事委員会事務局と米海軍法務官軍団の責任であり、GITMOでCovid-19に対する適切な保護を受けていなかったと述べた。

しかし、軍はゲイツ氏とバルアルテ氏の誠実さを疑い、ゲイツ氏が実際に病気であるかどうかを判断するために、既知のあらゆるCovid-19検査を行った。その結果、すべての検査が陰性であった。2人の海軍医師がゲイツの健康診断を行い、ハンニク副提督は火曜日に法廷を再開すると述べた。



ビル・ゲイツ軍事法廷 第2日目

By Michael Baxter -2021年8月31日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/08/2.html>

ビル・ゲイツの軍事法廷の第2日目が始まり、彼の弁護士である不名誉なデビッド・バルアルテは、明らかに虚偽の罪状で依頼人を「蒸し返した」と法務官軍団を非難し、敵意が一気に高まった。バルアルテは、ゲイツが男女の未成年者とセックスをしたという法廷の主張に異議を唱え、ゲイツが1999年からインポテンツであるため、そのような主張は不可能であると主張した。

ジョン・G・ハンニク副提督は、「仮にそれが真実であり、そうでないことを証明できたとしても、彼が子供を売買していたという、元妻の証言を含む反論の余地のない証拠がある」と反論した。ハンニク副提督は、バルアルテとゲイツが、ゲイツがGITMOIに収容されている間にCovid-19に感染したと主張して法廷の時間を無駄にしていると諭した。Covid-19のPCR検査と抗体検査により、ゲイツがウイルスの犠牲になっていないことが証明された。また、**ゲイツはCovid-19の予防接種を受けていないと主張したが、これは血清検査で正しいことが証明された。**

しかし、この日の出来事は、ゲイツとワクチン産業との関係に焦点を当てるものではなかった。それどころか、軍事委員会は児童売買の容疑をかけたのである。ゲイツがおとなしく座っている間、ハンニク副提督は、検察側の最初の証人として、**スティーブン・シャープ**と名乗る人物を紹介した。この人物は、ゲイツが不幸な事件を「片付ける」ために数千万ドルを支払った自称「フィクサー」である。ゲイツのインポテンツの主張に反論したのが、この「レイ・ドノバン」である。ZOOMを使ったビデオに登場した彼は、ゲイツが勃起不全治療薬を服用したり、ED対策のためにアドレノクロムを注入したりするのを見たと言った。

「あなたは個人的にこれを見たのですか？」ハンニク副提督がシャープに尋ねた。「何度かありました。ビルは自分で薬を買いに行くことはなかったので、私の責任のひとつは、言い方は悪いですが、彼のために薬を買いに行くことでした。2回は私が点滴の準備をしました。そして、これだけは言えます。事前にインポだったとしても、その後はインポではありませんでした。私は、ビルがワイオミングの牧場の地下牢で未成年の少年少女とセックスしていたという絶対的な事実を知っています」とシャープ氏は語った。

手首に手錠をかけられたゲイツは、席から飛び出してこう叫んだ。「この男を見たのは生まれて初めてだ。これは正義の誤謬だ」と叫んだ。

「バルアルテさん、あなたのクライアントをコントロールしてください」とハンニク副提督は言った。スティーブン・シャープは、ワイオミングの牧場でビル・ゲイツとくつろいでいる写真を数枚、法廷で見せた。そのうちの1枚は、ゲイツが担架に横たわり、頭上に迫るシャープがゲイツの左腕に点滴を打っている写真だった。シャープは、ゲイツがアドレノクロムの点滴を受けている写真だと主張した。さらに、シャープはゲイツが未成年の女性と思われる人たちに囲まれている画像を提示した。「彼らは皆、薬漬けで、自分がどこにいるのか、何をしているのか分かりませんでした」とシャープは言った。

「そして、私は彼のために多くのことをしました。私はサイバーセキュリティの専門家でもあり、インターネット上のビルのネガティブな報道を一掃するアルゴリズムで彼の仲間を助けました。陰謀論的なものではなく、ビルに悪いイメージを与えるような実際の写真やビデオのことです。そのようなものがインターネット上に出回ると、すぐに消去されてしまうのです。ビルは、ワクチンに関する告発を気にしていませんでした。たとえ100%真実であっても、アメリカのほとんどの人がデタラメだと思っているからです。私の仕事は、何としても彼のパブリックイメージを維持することであり、私はそのために素晴らしい仕事をしました。だからこそ、軍が彼の牧場を襲撃し、アルゴリズムを実行しているサーバーを見つけてシャットダウンするまで、彼とエプスタイン、あるいは彼と愛人の写真がインターネット上で公開されることはなかったのです」とシャープは語った。

シャープはさらに、アドレノクロムを注入したばかりの攻撃的なゲイツが、タイからアメリカに輸入した13歳の少女を殴って殺害した事件を紹介した。シャープは、ゲイツの下で働いていた数年間に、同じような事件をいくつか「浄化」と言った。

「ゲイツが子供を売買していたという個人的な知識はありますか？」とハンニク副提督が尋ねた。「あります。実際、ニューヨークとニュージャージー港に輸送用コンテナが到着したとき、私は2回ほど立ち会いました。それぞれのコンテナには十数人の少年少女がいました。はっきりしたサインはありませんでした。ビルはそれを確認していました。彼は大金を払って、このことを水面下で黙っていたのです」とシャープは言った。

さらに、シャープはゲイツとの関係を証明するために給与明細書を作成した。2枚にはゲイツのサインがあり、他の1枚には「Microsoft Corporation」のスタンプが押されていた。10枚の半券はそれぞれ、スティーブン・シャープに365,000ドルが支払われていた。

ハンニク副提督はこの証人を退け、ZOOMを使ってゲイツの元妻、メリンダ・アン・フレンチを証言台に呼び戻した。「フレンチさん、あなたは最後の証人の証言を聞いていましたね。いくつか質問があります。あなたは被告人の前でスティーブン・シャープを目撃したことがありますか？」ハンニク副提督が尋ねた。

「ありました。そして、彼はビルのために、自分が言ったとおりのことをしました」とメリンダは言った。

「この法廷で嘘をつく理由はありませんね？」

「私の嘘の人生は終わりました。あの社会病質者とその策略からようやく解放されたことを嬉しく思います」とメリンダは言った。

ハンニク副提督は、水曜日の朝まで法廷を休会とし、ゲイツと大手製薬会社との癒着に焦点を当てることから始めると言った。

ビル・ゲイツ軍事法廷 - 3日目

By Michael Baxter - 2021年9月3日 ([Real Raw News](#)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/09/3.html>

ゲイツの軍事法廷の3日目は、弁護士デビッド・バルアルテ氏が用意した声明を聞くよう裁判所に懇願することから始まった。渋々、米海軍法務官軍団のジョン・G・ハンニク副提督は、短い宣言を認めると言った。バルアルテは、無実の男を起訴した軍を叱責し、ゲイツの社会貢献がなければアメリカはどれほど悲惨なことになっていたかを強調した。

「ゲイツ氏は人類が知る限り最も偉大な慈善家である」とゲイツの慈善活動を宣伝し、ゲイツの無私無欲の態度から恩恵を受けた慈善団体のリストを8分もの時間をかけて朗読した。ゲイツのいない世界は悲惨で、深く、暗い絶望の淵であり、優しさや良識が失われ、現在地球上で起こっている以上の病気や疾患が蔓延しているだろうと、バルアルテ氏は法廷を足早に歩きながら語った。

彼は、ゲイツが日常生活にもたらした技術的成果を誇りに思い、ゲイツの卓越した技術がなければ、アメリカは暗黒時代に逆戻りしていただろうと述べた。

「ビル・ゲイツはこれまでも、そしてこれからも先見の明がある」「彼の専門知識、発明、そして優しさが何千何万という命を救ってきた」とバルアルテ氏はまくしたてた。

「もう終わりですか？」とハンニク副提督が尋ね、「この法廷はあなたの芝居を十分に楽しんだと思います」と述べた。ハンニク副提督は本題に入った。

「ビル・ゲイツは慈善団体に寄付をしましたが、彼が何かを発明したかどうかは疑問です。彼は自分より頭のいい人たちにその仕事をさせていました。しかし、彼の親切心は薄い化粧板のようなもので、ビル・ゲイツの本当の姿を隠すために作られた幻想だったのです」と、ゲイツ氏に対する軍の訴えの是非を検討するために任命された3人の士官委員会に向けて述べた。

軍が国内のゲイツの所有地を秘密裏に搜索した際に押収したコンピューターから得た文書を法廷に提出した。それによると、**ゲイツがファイザー、メルク、ジョンソン・エンド・ジョンソンなどの大手製薬会社と秘密裏に取引をしていたことが分かる。2001年8月4日付の電子メールには、ゲイツがファイザー社のヘンリー・マッキネルCEO(当時)に提案した内容が記されている。**

その内容は、まともな理性を持った人ならば、極悪非道な計画と考えるだろう。

予防接種に検出不可能な毒を混入し、接種者の小脳を長年かけてゆっくりと溶かし、同時に重要な臓器を侵食するというものだ。このメールによると、症状が出るのは何年も先のことで、症状が出た場合、無知な臨床医は他の病気のせいにして、原因不明の臓器不全(末期疾患の原因を医師が正確に特定できない場合に用いられる予後不良)と判断したりするという。症状が出てからでは遅いのである。ゲイツは、自分の製品があらゆる治療法を打ち負かすことができると書いている。

この申し出によって、ファイザー社は何をすることができるのだろうか。ゲイツは、予防接種の安全性と有効性を向上させるファイザーの研究プログラムに年間1億5千万ドル、マッキネルのケイマン島の裏金に年間1千万ドルを「寄付」することに同意したのである。

ハンニク副提督は、パネルの注目をマッキネルの返信メールに向けた。

「親愛なるゲイツ様」とハンニク副提督は返信メールを読み上げ、「私たちの地球は人口過剰の危険な道を歩んでおり、最終的には社会に実際に利益をもたらす立場の人々のために資源を確保するために淘汰が必要であるというあなたの見解に共感していることはご存知のとおりです。私の選択であれば、あなたのアイデアを素直に受け入れ、全力で推進します。しかし、私も同僚も、まだ時期尚早だと感じていますし、このベンチャーは私や会社全体に罪を着せる危険性があると考えています。病気の真の原因が公表されても、私やあなた、あるいは会社が罪を問われないような仕組みを作っておけば、今後も話し合いを続けることができます...」。

ゲイツからの返信によると、すでにゲイツの部下が250人を対象に、インフルエンザの予防接種に導入された薬の改良型を使った臨床試験を行ったとのことである。このメールでは、どのような人たちがこの薬を受け取ったのかは明記されていなかったが、ゲイツは250人全員が薬を飲んで6か月後の同じ日に「死亡した」と書いていた。

バルアルテ氏は、無実のゲイツ氏を有罪に見せるために、メールが捏造されたり、改ざんされたり、修正されたりした可能性があると反論した。

ハンニク副提督は、「ゲイツはこれらの通信を暗号化するために十分な努力をしましたが、我々の暗号と独立したデジタル・フォレンジックの専門家がこれらをゲイツのデジタル・フットプリントとリンクさせており、これらの電子メールが彼によって、あるいは彼に宛てて書かれたものであることは間違いありません」と述べた。

バルアルテ氏は法廷の許しを請い、依頼人と個人的に話し合うために休廷を求めた。

苛立ったハンニク副提督は、自分自身が疲れているように見えたので、木曜日の朝まで休廷することに同意した。



ビル・ゲイツ軍事法廷 第4日目

By Michael Baxter - 2021年9月7日 ([Real Raw News](https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/09/4.html)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/09/4.html>

先週の水曜日に行われた第3日目の終了時点で、米軍は、ゲイツまたは彼の代理の人々が、少なくとも250人の無防備な人々に、ゆっくりと臓器を侵食し、最終的には死に至るように設計された実験的なインフルエンザ・ワクチンを注射したことを証明する証拠があると主張した。

ゲイツ氏の弁護士であるデビッド・バルアルテ氏は、クライアントと個人的に話をするために裁判の休廷を要求した。木曜日の朝に裁判が再開されると、バルアルテ弁護士は、独立した法医学の病理学者を雇って遺体を掘り起こして調べてもらうために、250人の被害者とされる全員の前遺体を提出するよう米海軍法務顧問団に要求した。

「しかし、あなたにはそれができないでしょう、ハンニク副提督？ なぜできないか分かりますか？ その人たちは存在していないし、注射も行われていないからです。あなたはこの男を友人とのロールプレイングゲームに基づいて起訴しようとしています。それ以上でもそれ以下でもありません。彼らは病的でしたか？ そうです。犯罪ですか？ いいえ、この裁判は偽物です」とバルアルテは言った。

しかし、ハンニク副提督は、バルアルテ氏の挑戦に備えているようだった。

「ビル・ゲイツは傲慢でナルシストだ」とハンニク副提督は被告人を指差して言った、「しかし、彼ははずさんではない。仮に発掘する遺体があったとしても、20年後に何か見つかるかどうかは疑問だ。しかし、ビルは発掘が起こらないようにした。遺体はすべて火葬され、中には遺族の遺志を無視したケースもあった」。

ゲイツは、2001年8月にシアトル・タイムズ紙に掲載されたゲイツ財団の広告を裁判で見せた。この広告では、「革命的な」インフルエンザ・ワクチンを受けるボランティアを募集していた。このワクチンは、5年間有効で、人体と自動的に相互作用して、まだ知られていない季節性インフルエンザに対抗することができる、と書かれていた。参加者は65～75歳で、心臓病や糖尿病などの慢性疾患を持たない人に限られていた。また、この薬を受け取る人は、一連の秘密保持契約と、ゲイツ財団、マイクロソフト社、そしてこの薬が投与されたハーバービュー医療センターの「**生命の損失**」を免責する**権利放棄書に署名**しなければならなかった。さらに、ゲイツ財団のパートナーであるカイロン社が、いわゆるワクチンを受け取ったことによるいかなる逆恨みからも免責されるというものであった。

バルアルテは、軍はどこからそのコピーを入手したのか、さらに重要なことは、その真実性を確認するためにどこからコピーを入手できるのかと尋ねた。バルアルテ氏は、軍事委員会事務局は、軍が彼のクライアントを嫌っているという理由だけで、フォトショップで広告を描いた可能性があると言った。

「ビル・ゲイツ(被拘禁者ビル・ゲイツ)は、デジタルデータを消去するのが非常に得意です。当時は非常に初歩的なインターネットでしたが、彼はデジタル記録を破壊したり削除したりすることに何の問題もありませんでした。検察にとって幸運なことに、『シアトル・タイムズ』紙はまだマイクロフィッシュに印刷された紙面をバックアップしていました」とハンニク副提督が言うと、小さな金属製のキャニスターを取り出した。「我々は、ハーバービューから、**253人の受取人のリストと、ゲイツのサインが入った書類**も入手しました」。

バルアルテは、法務総監が気まぐれに3人の死亡者を新たに作り出したと主張して反論した。

「250人と言ったな？ 今度は253人か？ どっちなんだ？」とバルアルテは吠えた。

ハンニク副提督は驚くべき事実を明らかにした。ゲイツワクチンで奇跡的に生き残った参加者が3名追加されたが、そのうち2名は数年後に死亡したという。

「**驚くべきことに、1人はまだ生きていて、現在91歳だ。彼女の話聞くべきだと思います**」とハンニク副提督はパネルに向かって語った。

ZOOMでスクリーンに映し出されたのは、「レシピエント163」と名乗る女性、**メアリー・ジョンソン**で、その風雪を経た顔にはかすかな笑みが浮かんでいた。

彼女は一語一語を大切にしながら、ゆっくりと話した。「2001年8月24日、医師に広告を見せて勧められ、注射を受けました。インフルエンザが流行する時期だったので、病気になりたくなかったのです。

また、私は針恐怖症なので、5年分の注射が打てるなんて聞いて、とても嬉しくなりました。リーフレットには、この注射は安全で効果的であり、軽い副作用があるだけだと書かれていました(腕の痛み、短い寒気、軽い発熱など)。ビル・ゲイツ財団とカイロン社がスポンサーになっていることを知り、1年後まで何も考えずにいました」。

その12か月後、彼女は壊滅的な臓器不全に陥った。まず、腎臓が皮質壊死を起こし、二度の移植が必要となった。その後、原因不明の肝臓の硬化が起こったが、彼女はお酒も飲んでいなければ、そのような症状を引き起こすことが知られている薬も飲んでいなかった。

その1か月後には急性虫垂炎になり、虫垂を切除し、さらにその1か月後には胆嚢を切除した。その3か月後には、1か月の間に2度の心臓発作に見舞われ、1年後には視神経が溶けて視力が15%以下になってしまった。ジョンソンさんの主治医は「不可解な全身性の連鎖的臓器不全」と言ったが、ジョンソンさんはゲイツのワクチンが彼女の健康状態を急速に悪化させた原因だと主張した。「私は若くはありませんでしたが、健康状態も悪くなく、今も生きているのは奇跡です。肝移植を受けた後、病院で電話がかかってきて、相手はビル・ゲイツだと言って、私の様子を聞いてきました。私はモルヒネを打っていたので何を言っているのか分かりませんでした。『ああ、ハイ、ビル、私のことを心配してくれて嬉しいわ』というようなことを言いました。そして彼は、私が契約書にサインしたことを忘れるな、守らなければならない契約だと言って電話を切ったのです」とジョンソンさんは法廷で語った。「臓器が液化することを知っていたら、あんなことはしなかった」と、彼女は言葉の合間に大きくため息をついた。

ジョンソンさんの証言を受けて、ハンニク副提督は法廷を週末明けまで休会とし、9月7日(火)に再開することにした。



軍がビル・ゲイツに有罪判決を下す

By Michael Baxter - 2021年9月12日 ([Real Raw News](https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/09/blog-post_12.html)より翻訳)

https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/09/blog-post_12.html

グアンタナモ湾の軍事法廷は、マイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツに対し、児童売買、小児性愛、陰謀、マネーロンダリング、殺人、公衆衛生上の危険などの罪で有罪判決を下しました。これは、米海軍法務顧問団のジョン・G・ハンニク副提督とデビッド・バルアルテ弁護士が何度も対決するなど、5日間にわたる白熱した証言の結果です。

水曜日の朝、ハンニク副提督がゲイツ氏とワクチン産業との不正な関係を示す追加証拠を提出したことで、激発は続いた。ゲイツの個人サーバーから入手した文書には、ゲイツが2011年に、米国のワクチン販売業者から「軽い」抵抗を受けた後、貧困に苦しむインドの4万1千人の子供たちに「死に至るまでの深刻な副作用を伴う」ワクチンを配布した経緯が記されていた。

しかし、このワクチンはポリオを予防するどころか、むしろ悪化させ、4万人以上の子どもたちを不具者や死者にした。ポリオの患者数が増加していたにもかかわらず、謎の「スーパーポリオ」はゲイツと国際的なワクチン販売会社のコンソーシアムによって作られた全くのフィクションだったのである。ゲイツは誠意の表れとして、経口投与されることの多いワクチンの投与を手伝うために、インドにまで足を運んでいたのである。

「ゲイツ氏の資料によると、ゲイツ氏とその関係者は、彼の作った『スーパーポリオ』が現在の予防接種にも耐えるものであり、彼自身が承認した製品だけが架空の猛毒株を食い止めることができると、インドの人々に信じ込ませるために大規模なマーケティングキャンペーンを展開していました。彼は自分の毒を罪のない子供たちに食べさせるという大胆さを持っていました」とハンニク副提督は法廷で述べた。

バルアルテは異議を唱えた。「この法廷が公正であると仮定してみましょう。さらに、これらの突拍子もない話が真実であると仮定しましょう。アメリカの軍事法廷は、外国の地で外国人に対する犯罪をどうやって起訴することができるのでしょうか。」

「すべての条件が同じなら、それは正しいでしょう」とハンニク副提督は認めた。

「しかし、すべてが同じではありません。インドではアメリカ人宣教師が医療スタッフと一緒に働いていました。」

そのアメリカ人宣教師の中には、ゲイツ・ワクチンを接種した幼い子供を持つ人たちがいました」。ハンニク副提督によれば、6人の子供のうち6人が、接種後90日以内に完全で不可逆的な麻痺を発症し、続いて脳出血を起こして死亡したという。子供たちはアメリカ人の両親から生まれたアメリカ国民であるため、ドナルド・J・トランプ氏が退任前に発動した1807年の反乱法に規定されているように、軍はゲイツの死刑を告発する権限を持っていた。

ハンニク副提督は、3人の将校を前にして、「ゲイツの極悪非道な事業はインドにとどまらなりませんでした。4年後、彼はコンゴ民主共和国で、HIVの治療法を開発したと主張して、いわゆる人道的な任務を繰り返しました。そして、その薬でアメリカ人が死んだことは証明できませんが、少なくとも2万7千人のアフリカ人が死んだことは分かっており、これらはすべて動機を示しています」。

ハンニク副提督は、ゲイツとアンソニー・ファウチ博士との関係を問うために、より最近の出来事に話を移した。「あなたは2019年12月から2020年7月の間に、ファウチの自宅とあなたの自宅で5回、ファウチと個人的に会っている。あなた自身の文書では、ワクチンが販売されたら10倍の『投資額』を取り戻す代わりに、数千万ドルを製薬メーカーに『寄付』することが話し合われていました。あなたの言葉を借りれば、ファウチはこのアイデアを承認したことになります。もしあなたがそれほど博愛主義者なら、なぜキックバックを期待していたのですか？」ハンニク副提督はそう言った。

ゲイツ氏の弁護士は、質問に答えないように指示した。「そして、あなたが『ナノセントリック・バイオメトリック・レコーダ』と呼んだものをワクチンに搭載することを議論しませんでしたか？ いわばチップのようなもので、摂取者のバイオメディカルデータを摂取者の知らないうちにワクチンメーカーやNIH、CDCに送り返すようなものです」。ハンニク副提督は続けた。「このようなプライバシーの侵害は、ゲイツの狂気の一例であり、我々はこのような行為が行われたかどうか、またどのような範囲で行われたかを調査しています。軍事委員会は、被告人を有罪とし、死刑を宣告するのに十分な証拠を提示したと信じています。しかし、その決定はあなた方の手に委ねられているのです」と3人の将校委員に語った。将校たちは、1分もかからずに全会一致でゲイツを有罪とし、残虐行為を行ったゲイツを絞首刑にするよう求めた。ハンニク副提督は、2021年10月5日を死刑執行日とした。

ビル・ゲイツ氏、予定より早くGITMOで絞首刑に
By Michael Baxter -2021年10月1日 (Real Raw Newsより翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/10/gimo.html>

金曜日の朝、殺人犯でマイクロソフト社の創業者であるビル・ゲイツは、米海兵隊員がキャンプ・デルタの独房に入ってきて、法務総監が彼の死刑執行を10月5日から1日に変更したことを伝え、驚きの目覚ましコールを受けた。海兵隊員たちは、その理由を説明することなく、ゲイツに、死刑執行部隊が間もなく到着し、GITMOの南端に新たに設置された絞首台に彼を案内すると告げた。

「おまえのために新しい絞首台を作ってやったぞ」と警備員がゲイツを挑発したと言われている。ゲイツは最後の食事を拒否し、1時間後、太陽が地平線から顔を出した頃、ゲイツはGITMOの死刑囚を収容するために新しい絞首台が建設された場所に連れて行かれた。手首に手錠をかけられたゲイツ氏は、軍用車から出てきて、「約束を破った軍部を非難する。私にこんなことはできない。あと4日しかないんだ。あなたは私に嘘をついた！ この責任者と話がしたい。私はそれを要求する」とゲイツは叫んだ。

米海軍法務顧問団のダース・E・クランドール少将が率いる処刑部隊は、ゲイツに好ましくない知らせを伝えた。

「騒がずに男らしく出て行け。判決の日付は暫定的なものであり、予告なしに変更される可能性がある。あなたは1時間前に通知を受けた。くだらないことを続けていれば、鎮静剤を投与してから絞首刑にする。それで創造主に会いたいのか？」とクランドール少将は言った。

以前のディープステートの処刑とは異なり、民間人や政治家の使者は出席しておらず、軍の幹部が少人数で集まっていたと情報源は語っている。

ゲイツは壇上に誘導され、名札も階級も記章もない制服を着た兵士がゲイツの首に縄をかけて締め上げた。海軍牧師が「ゲイツが来世で救いを得ることを願う」と言って最後の儀式を行った。

クランドール少将が、ゲイツに最後の言葉はあるかと尋ねた。

「私は無実だ。メリンダは嘘つきだ。私は善良な人間だ。慈善活動をしているし、常に法律を守ってきた。確かに、1975年には無免許運転、1977年にはスピード違反で逮捕されたが、それらは死刑判決に値するものではない…」とゲイツは言った。

「最後に何か言いたいことはないかと尋ねたんだ。小説を書けとは言っていない」とクランドール少将は言った。

クランドール少将はゲイツの横に立っている兵士に指示を出した。

兵士がレバーを引くと、ゲイツの足元にあった落としドアが開いた。

しかし、何かの間違った。ゲイツの首はすぐには折れず、宙に浮いたまま、足をバタバタさせ、眼球は破裂するかのように膨らんでいた。手錠をかけられた両腕がロープを掴もうとすると、ゴボゴボと喉が鳴る。

「クランドール少将の助手は、ゲイツを切り落とすべきかどうか尋ねたが、少将は技術的な問題があっても刑を執行すると言って断った。ゲイツは生きたまま4～5分ほど吊られていたが、絞殺されてしまった。

絞殺されたゲイツ氏は、医師から『死んでいる』と言われたそうだ。

ビル・ゲイツはもういない」と我々の情報源は語った。

Real Raw Newsは、南カリフォルニア大学の名誉教授であり、中世の処刑の専門家であるポール・ノウルズ氏に連絡を取った。「絞首刑を成功させるのは簡単なことではありません。人の身長や体重、落下距離などの変数があり、それらを考慮して必要なロープの長さを決めるのです。

これらの変数のどれかが正確に計算されていなければ、絞首刑は失敗し、被害者は非常に長く苦しい思いをすることになります」とノウルズ教授は語っている。

ビルゲイツが世界の大手製薬会社と結託して、コロナワクチンを含む、様々な有害なワクチンを開発・拡散してきたことは、SNSで知ったとしても、信じられないほど、残忍で恐ろしいものです。しかし、上記の軍事法廷の審議のように、ホワイト米軍は、膨大な資料や証言者の発言などを精査して、確実な裏付けのある証拠資料を基に軍事法廷を開催しているので、判決には説得力があります。

『天界のマシュー君からのメッセージ』で説明されていたように、地球外生命体の特殊部隊の科学者達がコロナワクチンの毒性を軽減してくれていなければ、被害は、甚大なものになっていたことでしょう。

ビルゲイツの替え玉

ディープステートにとって、ビルゲイツが処刑されたことや、表面的な活動が長期間途絶えていることがメディアにできることは不都合なので、ハリウッドの特殊メイクによる替え玉を創りました。現在の特殊メイク技術は驚くほど高性能です。

ビルゲイツの替え玉は、2022年8月に来日し、8月18日に、林外務大臣から『旭日大綬章』を授与されました。



朝日新聞デジタル

ビル・ゲイツが予言していたパンデミック「再び来る」への戦略は聞き手・浜田陽太郎2022年6月27日 9時00分

<https://www.asahi.com/articles/ASQ6R3HFRQ6QUTFL00J.html>

マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏(66)がいま、一番力を入れているのが感染症対策だ。昨年離婚した元妻のメリンダさんと財団を立ち上げ、20年以上にわたり莫大(ばくだい)な私財を投資してきた。7年前にパンデミックの発生を「予言」していたゲイツ氏は、こう話す。

僕たちは「運がよかった」だけ

2015の時点で「次の数十年で1千万人以上が亡くなる災厄は、戦争ではなく感染症だ」と予測できたのはなぜですか？

「僕たちの財団は貧しい国の感染症対策に力を入れていて、[スペイン](#)風邪から重症急性呼吸器症候群(SARS)まで、過去100年のあらゆるアウトブレイク(感染爆発)について研究している。その中で、人々が国境を越えて頻繁に移動するようになったことで、呼吸器系のウイルス感染症が瞬間に広がることに気づいたんだ」

「専門家を集めて『何か、パンデミックの到来を防いでいるものがあるのだろうか』って尋ねたら、『基本的には何もない』というのが答えだった。この100年の間、我々は単に運がよかつただけで、いずれ運は尽きる。だから、準備しないとイケないんだ、と」



読売新聞オンライン

ビル・ゲイツ氏に旭日大綬章の勲章...
途上国での感染症対策に取り組んだ功績で
2022/08/18 20:53

<https://www.yomiuri.co.jp/pluralphoto/20220818-OYT1150127/>

林外相は18日、米マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏と外務省で面会し、旭日大綬章の勲章を渡した。ゲイツ氏が共同議長を務める慈善基金団体「ビル＆メリンダ・ゲイツ財団」が、**途上国で感染症対策に取り組んだ功績を評価**した。

受章は2020年春の叙勲で決定したが、新型コロナウイルスの影響で授与は延期されていた。

両氏は、誰もが基礎的な保健医療サービスを受けられる社会を目指し、緊密に連携することで一致した。ゲイツ氏はこの日、自民党の茂木幹事長とも党本部で面会した。



ビル・ゲイツ氏が来日、コロナ禍で途上国のワクチン接種率が「2009年頃に戻った」と警鐘

小林 優多郎 [編集部] 8,19, 2022, 05:35 PM 国際

<https://www.businessinsider.jp/post-258141>

マイクロソフト創業者で、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団の共同議長を務めるBill Gates(ビル・ゲイツ)氏は8月19日に、民間企業の有志主催のイベント「グローバルヘルス・アクション ジャパン」に登壇した。

グローバルヘルス・アクション ジャパンは、複数の企業や団体の代表の有志団体。世界の保健医療分野、特に公衆衛生分野・感染症対策分野での支援や関連する事業へ貢献する企業などが集まっている。

ビルゲイツは逮捕前の2021年5月3日に、離婚することを公表しました。
その時の写真の顔と、替え玉の顔とを比べてみました。



CULTURE [海外セレブゴシップ・コラム](#)

ビル・ゲイツとメリンダ・ゲイツ夫妻、離婚を発表
「マイクロソフト」の創業者で現在は慈善家として知られる
ビル・ゲイツ。メリンダ・ゲイツ夫人との離婚を発表した。

By [Yoko Nagasaka](#) 2021/05/03

<https://www.elle.com/jp/culture/celebgossip/a36322196/bill-gates-melinda-gates-divorce-210504/>

ビル&メリンダ・ゲイツ財団を設立、慈善家として活動してきたビル・ゲイツとメリンダ・ゲイツ。
27年の結婚生活に終止符を打つことを明らかにした。現地時間5月3日(月)にTwitterに共同声明を発表。
「熟考と努力を重ねた結果、私たちは結婚生活を終わらせることを決断しました。この27年の間に私たちは
素晴らしい子どもたちを育て、すべての人が健康で豊かな生活を送ることができるよう世界中で活動する
財団を設立しました。私たちはこれからもその使命を大切に、財団の仕事を共に続けていきます。
しかし私たちが今ある人生の次章において、夫婦として成長していけるとはもう思っていません」とコメント。



2021年5月3日 本物



2022年6月27日 替え玉



2022年8月18日 替え玉



2022年8月19日 替え玉

2022年6月27日の替え玉の写真では、顔の肌に艶があり、本物との違いは明らかですが、8月に来日した時の顔は、本物との識別がむづかしいほど、精密に造られていましたが、目の下瞼に違いが見られ、8月18日と19日では髪型に違いがありました。ディープステートは、今のバイデン大統領と同様に、最高レベルの変装技術を使用しているのでしょう。本人と体格や顔型が似ている俳優を起用するケースが多いようです。



軍事法廷『軍がビル・ゲイツを逮捕 2021年8月1日』より

2021年11月2日の替え玉も精密に造られていますが、耳の形に違いが識別できます。

2021年11月2日、スコットランドのグラスゴーで開催されたCOP26(気候変動枠組条約締約国会議)でのビル・ゲイツ。

ハリウツドの シリコン人間の制作映像

【How to make up】【 Make up Technique】Amazing old age make up プロの方も必見 リアルな老人に大変身してみた。イケメンが85歳の老人に大変身！ 8,018 回視聴 2019/12/22 Studio_AKI チャンネル登録者数 3410人

<https://www.youtube.com/watch?v=owtqJuihmt0>

Amazing old make up by Pepe Mora プロの方も必見 ハリウツド スーパーリアルな老人メイクの工程 全て見せます。イケメンが85歳の老人に大変身！スーパーリアルなシリコンメイク！必見です。



→
変身



動画で見ても、目の動き、口の動き、表情などが自然で、全く違和感が感じられません。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

アンソニー・スティーヴン・ファウチ (1940年12月24日 -) は、アメリカ合衆国の医師、免疫学者。1984年からアメリカ国立アレルギー・感染症研究所 (NIAID) 所長^{[1][2][3]}。アメリカ合衆国の政権6代に渡って大統領に感染症関係の助言をし^[3]、大統領エイズ救済緊急計画 (英語版) の策定において中心的役割を果たした^[3]。2020年1月からは、アメリカ合衆国における新型コロナウイルス・パンデミックに対処するホワイトハウス・コロナウイルス・タスクフォースの主要メンバーの一人として活躍している。アメリカ国立衛生研究所 (NIH) の医師として、50年以上にわたり様々な立場から公衆衛生に貢献してきた。科学者として、また NIH の NIAID の責任者として、HIV/AIDS研究やその他免疫不全の研究に貢献し、ロベルト・コッホ賞金メダル (2013年)^[4] や、ガードナー国際保健賞 (2016年)^[5] 等を受賞。「感染症に関する米国の第一人者」と呼ばれている。



『ファウチ軍事裁判 1日目 2022年4月18日 (Real Raw Newsより翻訳) 』

2022年4月18日、GITMO。東部標準時11時。

敵性戦闘員ディープステート博士アンソニー・ファウチは弁護士席に一人座り、印刷されたノートの山に巣食う鳩のように手を組んだ。まるで逃げ道を探すように、あるいはただ静かに困惑して自分の苦境を考えているように、メガネをかけた目が天井の高い法廷内を次から次へとゆっくりと移動していくのを除いては、彼はじっと座っていた。

「被拘束者アンソニー・スティーヴン・ファウチさん、私の言っていることが分かりますか？ 瞑想の邪魔をするつもりはないのですが、そろそろ始めないと。今日はご一緒できてうれしいです」とダース・E・クランドール少将。「ファウチ博士だ」とファウチが訂正した。

「もう違います」。

ファウチは無数の犯罪で告発されていた。**大量医療過誤、反逆罪、扇動的陰謀、殺人、殺人未遂、殺人陰謀、贈収賄、マネーロンダリング、政府報告書の偽造など、数え切れないほどの罪で告発されていた。**

彼の震える指は、目の前に並べられた書類をいじっていた。

「これらは私の犯罪ではありません。私はこの告発を認めないし、この法廷の権威も認めない。誰が私をここに入れたか分かっている。彼らも、おまえも、おまえも、おまえも、この償いをすることになる」。

ファウチは、クランドール少将と、まだ米海軍法務官 (JAG) の証拠を聞いていない3人の将校を指差した。ディープステートの医師は、ドナルド・J・トランプとランド・ポール上院議員について暴言を吐き、科学を破壊し、個人的な復讐心を満たすため以外の理由で無実の人を訴追していると非難した。「私は自分の無実を除いては何も認めない。私は数百万から数十億の命を救ってきた。トランプや誰かの命令を受けたあなた方は...」

ファウチの話し方は、まるで樽が転がり落ちていくようだった。一度話し始めると、彼のスピーチは勢いを増し、どんどん転げ落ちて、跳ねて、ループして、制御不能になる。

それを止めるには、何か突然の外力が必要だった。クランドール少将がその力だった。

「ファウチ被拘束者、あなたは自分の感情をコントロールしなければなりません、さもなければ私たちがあなたのためにそうします-猿ぐつわと手錠で」。

ファウチはついに口を閉ざした。

最初に証拠として提出されたのは、ファウチの共謀者である**故フランシス・コリンズ**を有罪にしたのと同じ電子メールであった。つまり、この電子メールのチェーンは、この卑劣な二人の間の長いやり取りで、**致死性のワクチンよりもイベルメクチンやヒドロキシクロロキンを擁護する医師や保健当局者を殺害すること**について議論したものであった。

「面白いですね。被拘禁者ファウチ、あなたの友人フランシスが、全てをあなたのせいにして、自分自身の責任を免れようとしたことを知っていますか？

彼はなんて素晴らしい友人だったのでしょうか」とクランドール少将は言った。

短い休廷の後、クランドール少将は検察側の証人として、感染症の専門家で、国立アレルギー感染症研究所の**ファウチの元同僚の一人**を紹介した。

RRNはこの時、証人の名前を明らかにしないよう要請されたので、「**証人サム**」と呼び、引用した台詞からは名前を省くことにする。また、彼の正体を裏切る可能性のある証言は、省略記号で隠した。

ZOOMに登場したサムは、自分の名前と身分を明言し、証言と引き換えに検察の免責を得たことを認めた。

「軍事委員会とJAGとの合意にもかかわらず、あなたはここに真実、完全なる真実、そして真実以外を語らないことを誓いますか、神のご加護を」とクランドール少将は尋ねた。サムは承諾した。

「きょう、この法廷にいるあなたの元雇い主を認めますか？」「見覚えがあります」。

「彼を特定できますか？」とクランドール少将は尋ねた。

「アンソニー・ファウチ博士、オレンジ色のジャンプスーツを着た、白髪の男性で、そのテーブルに座っています」。ファウチの下で働いていた期間を聞かれ、証人のサムは19歳からNIADSIにいると答えた...

「19歳...。では、あなたは被告を合理的に、よく知っていると考えてよいですか？ 仕事上、個人的に？」

クランドール少将は尋ねた。

「非常によく」とサム証人は答えた。

弁護側テーブルの後ろで、ファウチがビュースクリーンを威嚇するように睨みつけた。

「あなたにお聞きします。あなたの最初の宣誓証言に基づきます。FDAがファイザー社のCovid19ワクチン接種について緊急使用許可を出した2日後の2020年12月11日に、あなたは被告と会話をしましたか」とクランドール少将は質問した。「私はしました。私たちの多くがそうでした」。

「そして、その会話の内容はどのようなものでしたか？」とクランドール少将は言った。

「**彼は私にワクチンを受けるなど言いました**」と証人サムは言った。

「彼は理由を言ったのですか？」とクランドール少将は迫った。

「彼は、試験参加者の多くが**心停止を起こし、男性不妊症の原因となり、妊婦を自然流産させ、後天性免疫不全症候群を引き起こす**可能性があると言ったのです。彼は、その情報は公開されていないと言いました」と目撃者のサムは言った。

クランドール少将は、ヒポクラテスの誓いを立てた医師であるサム証人が、なぜファウチの発言を公の記録にしないのか知りたかったのだ。サム証人は、自分は守秘義務契約によって縛られており、儲かる仕事を失うことを恐れていると言った。

「この男は嘘つきだ！」とファウチは叫んだ。「私はそんなことは言っていないし、彼はそれを知っている」。

クランドール少将はファウチに暴走を抑えるように命じたが、ファウチはそれを拒否した。

彼は大声で叫び、「はめられた」と主張した。提督はGITMOの警備員にファウチを法廷から追い出させた。

以下の軍事法廷は省略します。 ファウチ博士は**4月25日**に処刑されました。

コロナを含む多くの病原菌の研究室での開発と、世界中にパンデミックさせることの指揮をとったファウチ博士と、様々な危険なワクチン開発の指揮をとった、ビルゲイツ。マシュー君のメッセージのように、地球外生命体の特殊部隊にいる科学者たちが、ワクチンの毒性を可能な限り減少してくれていなかったら、ワクチン接種の被害は、甚大なことになっていたことでしょう。